

Japanese Society

Hip

2021 / 9

日本股関節学会ニュースレター

第7号

鎌田 實

諏訪中央病院名誉院長

筋活と貯筋で豊かな人生

Interview

第47回学術集会を開催して

第48回学術集会のご案内

第7回教育研修セミナーのご案内

第31回大正 Award 受賞者

股関節に関する基礎と臨床の研究を通じて
股関節学の進歩普及に貢献することを目的とする

Japanese Hip Society

日本股関節学会ニュースレター

2021/9
第7号

- 3 目次
- 5 理事長ご挨拶
- 6 第47回日本股関節学会学術集会を開催して
- 8 第48回日本股関節学会学術集会のご案内
- 10 鎌田 實（諏訪中央病院名誉院長）特別インタビュー
- 15 第7回日本股関節学会教育研修セミナーご案内
- 17 日本整形外科学会学会賞受賞
- 18 第31回大正Award 最優秀賞
- 19 第31回大正Award 優秀賞
- 20 役員一覧①
- 21 新理事よりご挨拶
- 22 役員一覧②
- 24 入会案内
- 26 編集後記



日本股関節学会 理事長 杉山 肇

神奈川県リハビリテーション病院 病院長

新型コロナウイルス感染症がますます猛威をふるっている中、皆様には大変な毎日をお送りのことと拝察申し上げます。日頃から日本股関節学会の運営にあたりましては、多大なるご協力をいただき心より感謝申し上げます。第7号のニュースレターの発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

この1年は、日本股関節学会にとってもコロナで始まりコロナで終わるといった年度でした。昨年の第47回学術集会は、湊藤啓広先生を会長としてハイブリッド形式でオンラインを含め1100名を超える参加者を集めて開催されました。推考された素晴らしいプログラムで教育講演やシンポジウムが生まれ、会長講演では、「COVID-19時代の股関節手術」と題してお話をいただき、日頃の診療にも大きく役立ちました。本当に難しい状況の中で素晴らしい学会を開催された湊藤先生をはじめ三重大大学の先生方には心より御礼申し上げます。また、学術集会に先立ち行われた股関節学会セミナーもオンライン形式で行われましたが150名を超える参加があり、これからの学術集会やセミナーの在り方について考えて行く必要があると思います。学術集会は無事終了できましたが、その後の事業計画は、大きく変更することになりました。4月に準備しておりました学会セミナーのアドバンスコース、そして大きな反響をいただいていた骨切りセミナーについて、担当理事の先生とともに1年延期という判断をいたしました。年度内に開催できなかったことは大変残念ではありましたが、来年の4月の開催を楽しみにしたいと思います。

今回のニュースレターですが、海外研修制度が現在中断中なため、いつもご好評をいただいております研修報告はありませんが、昨年大正 Award の最優秀賞を受賞した市塚徹先生、優秀賞を受賞した桑沢綾乃先生の受賞コメントが掲載されておりますのでお読みいただければと思います。そして、ご存じの方が多くかと思いますが、久保俊一前理事長が日本整形外科学会学会賞を受賞されました。この受賞は、厳しいコロナ禍で苦しむ我々にとってとても元気になる明るいニュースで、リモートで行った理事会でも大きな話題となりました。先生には、我々に対する励ましのお言葉を日整会総会で授与された賞状と素晴らしいバカラとともに寄稿していただきましたのでお楽しみいただければと思います。

この秋、10月22日、23日には第48回の学術集会が川手健次会長のもとに奈良で開催されます。昨年と同じくハイブリッド形式での開催となりますが、できればコロナが落ち着き現地で皆様にお会いできることを期待しております。様々な課題がありますが、今年度はホームページの会員マイページ作成やe-learningの構築などの教育システムをさらに進めたいと考えておりますので、引き続き皆様の一層の御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

第47回日本股関節学会学術集会を開催して

会長 須藤 啓広

三重大学医学部整形外科 教授



開会式での理事長挨拶

第47回日本股関節学会学術集会を三重大学整形外科で主催させて頂きましたことを大変光栄に存じますとともに、学会員の皆様及び共催セミナー、展示、広告などにて協賛頂いた企業様に心より感謝申し上げます。本学術集会は2020年10月23日(金)・24日(土)の両日に三重県四日市市の都ホテル四日市と四日市市文化会館での現地開催+Web開催(Live配信+オンデマンド配信10月23日~11月30日)のハイブリッド形式で開催させて頂きました。現地参加が321名、Web参加が839名であり、合計参加者数は1160名(うち有料入場者数1093名)でした。新型コロナウイルス感染症の第2波と第3波の丁度真ん中でしたが、学会参加者に感染発症者がいなかったことに胸を撫で下ろしているところであります。

日本リハビリテーション医学会をはじめとする7つの関連学会との共催で企画した9つのシンポジウム、6つのパネルディスカッション、6つの教育研修講演、17のランチオンセミナー、2つのイブニングセミナー、ハンズオンセミナーでは、ZOOMを駆使したリアルタイムでの発表・質疑応答が行われ、その模様をLive配信致しました。学術集会の大切な目的である討論を盛り上げて頂いた座長の先生方、演者の先生方に心から感謝申し上げます。学会のテーマであった「Humanity Invention Progress」の一端を感じて頂けたのではないかと自負しております。学会前日に開催されました日本股関節学会第6回教育研修セミナーについてはLive配信+オンデマンド配信、733題と多数の応募を頂いた一般演題・ポスターはオンデマンド配信のみとさせて頂き、ホームページ上から聴講できるように致しました。なお、学会終了後に評議員の投票



会長講演

によって決定した最優秀演題賞には「医師部門」に大阪大学大学院医学系研究科運動器医工学治療学の岩佐諦先生、「看護部門」に都立多摩総合医療センター看護部の小野綾先生、「リハビリテーション部門」に神戸海星病院リハビリテーションセンターの中雄太先生が選ばれました。おめでとうございます。

日本股関節学会では初めてとなる開催形式であり、ご不便・ご心配・不手際等多々あったと存じますが、何卒ご容赦頂きますようお願い申し上げます。最後になりましたが、本学術集会に関わって頂いた全ての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ZOOMを使用した総合討論

開催告知

第48回日本股関節学会学術集会

今年(2021年)10月22(金)・23日(土)に開催する第48回日本股関節学会学術集会について

会長 川手 健次

奈良県総合リハビリテーションセンター 院長

この度、「第48回日本股関節学会学術集会」を2021年10月22日(金)・23日(土)に奈良市の奈良県コンベンションセンターにおいて開催させていただきます。我が国における股関節外科医の礎である本学術集会を、今年聖徳太子1400回忌を迎えた奈良県において初めて開催させていただくことは大変名誉なことであり、このような機会を与えていただきました会員の方々に心より感謝申し上げます。

さて2019年末から長く続くコロナ禍はなお予断を許さない状態ですが、ワクチン接種の進行によって改善し10月末には何とか通常開催できないかどうか、オンラインを使った他の方法も必要かどうか模索中でございます。そこで本学術集会のテーマは「心体光明—世界を股にかける—」としました。「心体光明」は故野村監督がよく引用された菜根譚という中国古典に記載されている四字熟語で、「心と体が正しく物事を理解すること」という意味です。天平文化が花開いた奈良時代の聖武天皇の妃で、病人や孤児の救済のために我が国で初めての医療施設である施薬院や悲田院などの福祉施設を設置された光明皇后の偉業に思いをさせ、本学術集会で正しい知識を得て光明を見出しポストコロナには大いに世界で活躍してほしいと願ったテーマです。光明皇后は東大寺、国分寺、興福寺、法華寺、新薬師寺、正倉院



など多くの寺院の創建整備にも関わられました。

本学術集会では杉山肇理事長、前理事長で現日本リハビリテーション医学会理事長の久保俊一先生、医療安全の権威で奈良県立病院機構理事長の上田裕一先生、埼玉医科大学名誉学長の東博彦先生、日本人最初の新型コロナ感染患者を治療し東大寺のお水取りも指導した奈良医大感染症センター教授笠原敬先生、お水取りの解説をしていただく東大寺僧侶、メディアで活躍中の山口真由弁護士などに講演していただくことになっております。我々、学会員が日本の歴史と現状を理解し今後どのような意識をもって進んでいくべきかをご教示いただけたらと思っております。

第48回の学術集会が安全安心に行われ、会員の先生方の日常診療のためになり、股関節の障害を患う患者さんの治療に少しでも寄与できることを心より願ってご挨拶とさせていただきます。

第48回日本股関節学会学術集会

テーマ **心体光明 - 世界を股にかける -**

会期 **2021年10月22日(金)～23日(土)**

会場 **奈良県コンベンションセンター 奈良県奈良市三条大路一丁目691-1**

会長 **川手 健次 (奈良県総合リハビリテーションセンター 院長 / 奈良県立医科大学 客員教授)**

おもなプログラム

特別講演	特別講演 1	上田 裕一 (地方独立行政法人奈良県立病院機構)
	特別講演 2	久保 俊一 (日本リハビリテーション医学会)
	招待講演 1	安藤 英次 (大阪滋慶学園教務部 診療放射線技師学科)
	招待講演 2	笠原 敬 (奈良県立医科大学 感染症センター)
	招待講演 3	富田 直秀 (京都市立芸術大学)
	招待講演 4	田中 千晶 (学研都市病院 整形外科人工関節センター)
	招待講演 5	山口 真由 (ニューヨーク州弁護士)
	招待講演 6	安宅 一晃 (奈良県総合医療センター 集中治療部)
海外招待講演	招待講演 7	杉元 佐知子 (奈良県総合医療センター看護部)
	招待講演 8	齋藤 恒一 (鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 リハビリテーション学科)
	海外招待講演 1	Charles Brgdon (Massachusetts General Hospital, USA)
	海外招待講演 2	Michael Hue (USA), Masri Bas (Canada)
	海外招待講演 3	Nam-Hoon Moon (Pusan National University Hospital, Pusan, Korea)
	海外招待講演 4	JU-n-Dong Chan (Hallym University Dongtan Sacred Heart Hospital, Seoul, Korea)
	海外招待講演 5	Byung-Woo Min (Keimyung University Taegu, Korea)
	海外招待講演 6	Sng-Min Kim (Korea University, Seoul, Korea)
教育研修講演	海外招待講演 7	Seung-Jae Lim (Samsung Medical Center, Seoul, Korea)
	教育研修講演 1 小児股関節疾患の検診・診断と治療	瀬川 裕子 (東京医科歯科大学整形外科)
	教育研修講演 2 股関節周囲腫瘍の診断と治療	村上 玲子 (新潟大学整形外科・リハビリテーション科)
	教育研修講演 3 骨質に応じた人工股関節カップ固定法	尾崎 敏文 (岡山大学整形外科)
	教育研修講演 4 股関節アトミー：骨、筋、靭帯	長谷井 嬢 (岡山市立市民病院整形外科)
	教育研修講演 5 股関節アトミー：血管、神経	藤田 裕 (京都桂病院整形外科 関節センター)
	教育研修講演 6 股関節への前方系、後方系アプローチ。利点と欠点	中村 琢哉 (富山県立中央病院整形外科)
	教育研修講演 7 こんなときどうする？ - 骨切り術・THAのトラブルシューティング -	中島 康晴 (九州大学整形外科)
シンポジウム	教育研修講演 8 人工股関節再置換術 - 周囲骨折を含む -	秋田 恵一 (東京医科歯科大学臨床解剖学分野)
	教育研修講演 9 骨欠損症例への治療戦略	青田 恵郎 (福島県立医科大学整形外科)
	シンポジウム 1	神野 哲也 (獨協医科大学埼玉医療センター整形外科)
	シンポジウム 2	松原 正明 (日産厚生会玉川病院整形外科)
	シンポジウム 3	関 泰輔 (名古屋大学整形外科)
	シンポジウム 4	兼志 歩 (金沢医科大学整形外科)
	シンポジウム 5	原田 義忠 (千葉県済生会習志野病院千葉関節外科センター)
	スポンサーシンポジウム	島 直子 (兵庫県立リハビリテーション中央病院整形外科)
パネルディスカッション	パネルディスカッション 1	佐々木 幹 (済生会山形済生病院)
	パネルディスカッション 2	蜂谷 裕道 (医療法人蜂友会 はちや整形外科病院)
	パネルディスカッション 3	若瀬 敏樹 (浜松医療センター整形外科)
	パネルディスカッション 4	これからの股関節外科医に求めるもの・めざすもの
	パネルディスカッション 5	日本で生まれたセメントレス人工股関節とその魅力
	パネルディスカッション 6	日本で培われた骨切り術とその魅力
	パネルディスカッション 7	AO Recon JHS symposium-Coplex primary THA-
	パネルディスカッション 8	コロナ禍のリハビリテーション
	パネルディスカッション 9	変形性股関節症の新たな展開
	パネルディスカッション 10	大腿骨頭壊死への移植・再生医療

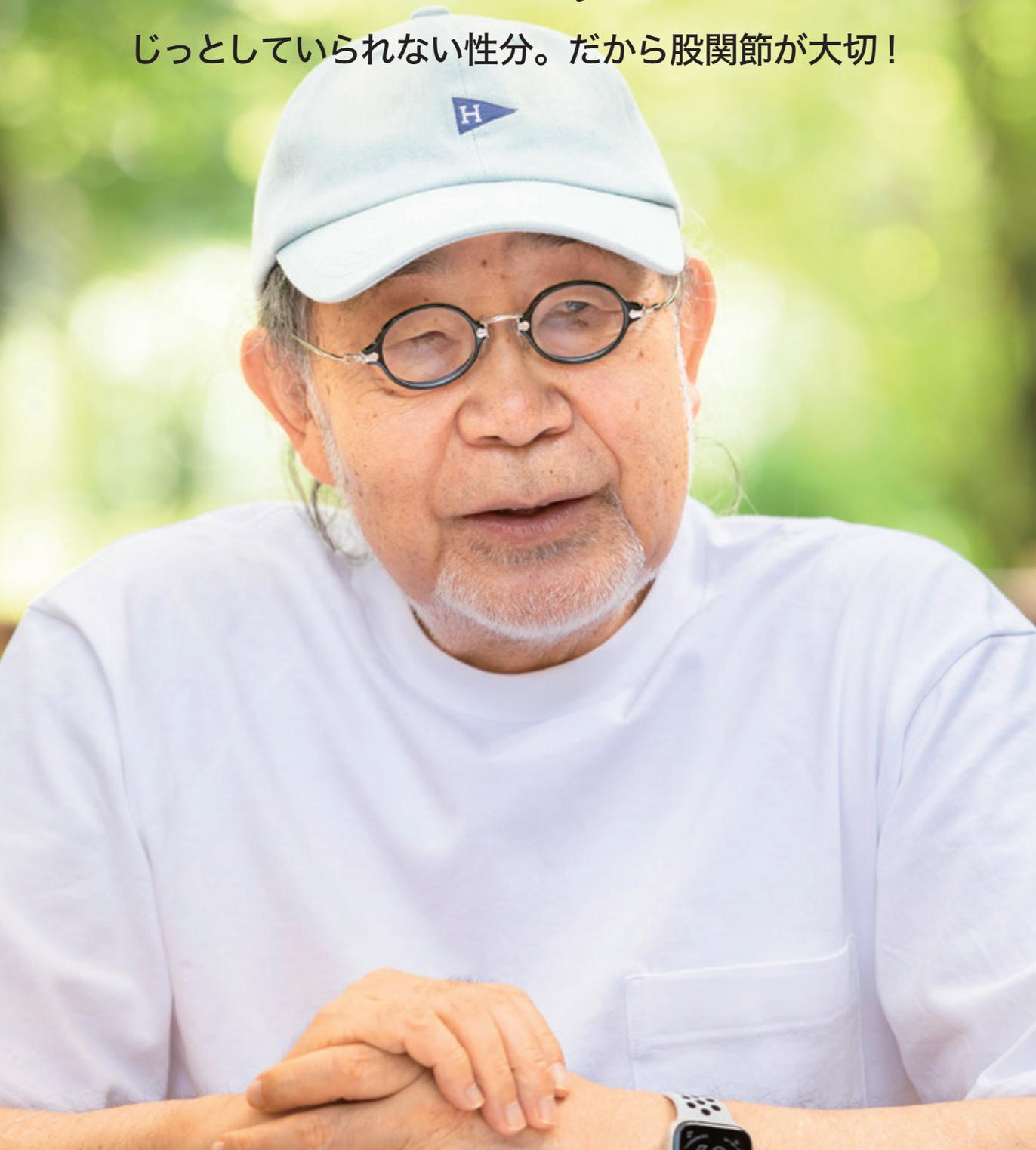
Japanese Hip Society

特別インタビュー



筋活と貯筋で豊かな人生

じっとしてられない性分。だから股関節が大切！



鎌田 實

かまた・みのる

1948年生まれ。

1974年、東京医科歯科大学医学部卒業後、諏訪中央病院へ赴任。30代で院長となり、潰れかけた病院を再生させた。「地域包括ケア」の先駆けを作り、長野県を長寿で医療費の安い地域へと導いた（現在、諏訪中央病院名誉院長、地域包括ケア研究所所長）。一方、チェルノブイリ原発事故後の1991年より、ベラルーシの放射能汚染地帯へ100回を超える医師団を派遣し、約14億円の医薬品を支援（JCF）。2004年からはイラクの4つの小児病院へ4億円を超える医療支援を実施、難民キャンプでの診察を続けている（JIM-NET）。東日本大震災以降、全国の被災地支援にも力を注いでいる。ベストセラー「がんばらない」、「鎌田式『スクワット』と『かかと落とし』」他、著書多数。



鎌田實先生の最新刊『ミッドライフ・クライシス～80%の人が襲われる、“しんどい”の正体』青春新書より2021年7月発刊

40代で訪れた「ミッドライフ・クライシス」

私は東京医科歯科大学医学部を卒業後、都会暮らしから逃げるようにして長野県の諏訪中央病院で働き始めました。30代で病院長を任されてから、スタッフ教育、財務管理、関連病院との連携関係の構築、そして患者獲得のための営業まで、かなり精力的に働き続けていました。そんな生活が続く中、48歳のときに冷や汗と動悸、眠れない夜が続き、パニック障害と診断され、睡眠薬や発作性頻脈症を予防する薬のみ続け、苦しい数年間を過ごしました。「自分はそのまま病院長として走り続けていくのか?」「それで自分の本意を遂げられるのか?」そう自問自答する日々が続く、「自分は経営者の器でもないし、それが夢だったわけでもないなあ…」と気づきました。そし

て病院長という大役を退いて、強制的に余暇の時間を増やして、自然の中を散歩して汗を流しているうちに、エネルギーが復活して、NPO法人を立ち上げ自分のやりたい方向を定め、やっと中年危機（ミッドライフ・クライシス）から脱出することができました。この経験で痛感したのは、運動と余暇の大切さでした。忙しさを理由に体も動かさず、休みも取らない生活と別れを告げて、週末の半日くらいは自然の中を歩き回り、冬になれば若い頃から好きだったスキーに毎週行くようになりました。3年後にはスキー検定1級に合格したので、どれだけ本気で滑っていたかは想像していただけるのではないのでしょうか。

スキーで脚と肩を骨折。 無理をし過ぎて痛みが残る

「運動は薬」と言いますが、骨格筋から分泌される60種類に及ぶ「マイオカイン」の恩恵なのか、こういう生活を続けるうちに、メタボ体型も少しずつスリムになり、高血圧、頻脈、不

眠も少しずつ改善されました。

ところが老化に気づかずスピードを出して滑っているうちに転倒し、下肢骨折を2回、上腕骨頭骨折を1回体験しました。特に上腕骨頭骨折のときには、主治医から早めの手術を勧められたにもかかわらず、イラクでの活動を優先してしまったため、手術をせずにギプスで固定して飛び回ったツケが手指の重い痛みとなり、帰国後に「複合性局所疼痛症候群」と診断されました。電気治療などを受けましたが、痛くて掌握運動が半年もできませんでした。リハビリテーション治療も積極的に受けて、何とか約1年かけて手指



スキーで転倒し上腕骨頭骨折し、手術をせずに痛みを我慢したため複合性局所疼痛症候群となった

の痛みも改善しました。まさに「医者の不養生」の典型のような体験だったので、「何とかこの先は、けがや骨折をしないようにスキーを楽しみ、自分の脚で出かけられるようにしなければ…」と真剣に考えるようになりました。

そこで専属のトレーナーを依頼して筋トレに励み、出張時も滞在中のホテルでできる自重を利用した筋トレの方法を学びました。右ページで紹介している「スクワット」や「ランジ」は、毎日欠かさず行うようにしています。

僕は内科医として、肥満、メタボ、糖尿病、高血圧、高脂血症などの治療を中心に、地域の健康づくり運

豊かな人生のために

股関節の大切さをさらに普及してほしい

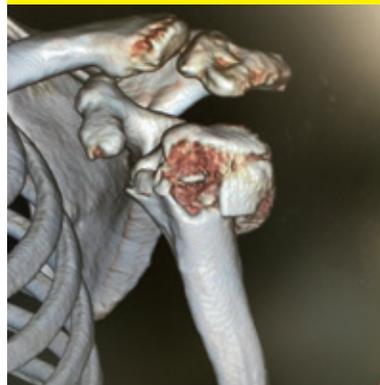
今年で73歳になりますが、アクティブな生活を続けることができています。2020年～2021年の冬にはスキー場で滑った回数が合計65回になりました。雪がちらつくと「あ！滑りに行かなければ…」と居ても立っても居られないワクワクした気分になります。

スキーを上手に滑るために、股関節がとても重要です。一見すると、スキーは膝が重要と思いがちですが、膝にだけ負担をかけないようにするためには内脚と股関節を上手に操作する必要があります。膝で脚を動かすのではなく、股関節から脚を動かすクセをつけるために、片脚ずつ内転・外転したり、膝に頼りすぎないように重心を移動させる運動なども行っています。見た目に

動にも積極的に取り組んできました。その際に指導してきたのは有酸素運動の重要性だけで、筋力づくりについては全く指導していませんでした。しかし自分の経験から、筋肉づくりの大切さを知り、整形外科医や理学療法士など、人体の構造、解剖に詳しい専門家から、骨や筋肉について学び、筋活や貯筋という言葉を使って、人々に筋肉づくりの重要性を伝えています。マイオカインに関する研究成果などがどんどん発出されていけば、さらに筋肉の重要性が医学会でも注目されていくでしょうね。

カッコよく、自分でも気持ちいいカービングターンをするには、オフシーズンからのトレーニングが大切です。

股関節の弱みというか、困ったところは、膝のようにすぐ痛みのサインを出してくれないところにあると思います。高齢者の在宅医療にも携わっているので、膝が痛いと言える患者さんは多いのですが、股関節に関してはかなり病気が進行してから気づく場合が多いようで、何とか患者さん自身が股関節の異変に早く気づけるような指導や注意喚起ができないものかと思えます。「老いは股関節から」だと思えますし、ロコモ予防のためにも、日本股関節学会の先生方のお知恵をぜひ拝借したいところです。



上腕骨頭骨折のCT 3D処理画像。骨折部を安定させて痛みを軽減するために迅速な手術を勧められたが、イラク出張のため断念した



上腕骨頭骨折後に左腕を固定したままイラクの難民キャンプを訪問。腕と手指の痛みを隠して笑顔で我慢



日本に帰国して電気治療を受けながら指を動かして感覚を取り戻すリハビリテーション治療を行った。リハビリテーション治療は約1年続けることになった。手術を選択すべきだったと後悔



専属のトレーナーに始動を受けてマシントレーニングをスタート。現在はコロナ禍のため自重トレーニング中心

スクワット



肩幅の2倍の脚幅で立ち、背筋を伸ばしたまま、膝を曲げて腰を下げる。腹筋と背筋を意識して、ゆっくりと10数える。これを10回程度行う。股関節のストレッチを意識

ランジ



脚を前後に大股に開き、膝が直角くらいになるまで重心を下げてゆっくりと10数える。これを左右交互に10回程度行う。

スキー



両足をそろえてスキーのターンの姿勢で重心の位置を確認したり、膝の調子をチェックする。膝に負担をかけないように腹筋や背筋、大殿筋、中殿筋、大腿四頭筋、大腿二頭筋なども使うように調整する



あぐらで股関節の柔軟性をチェック

股関節は上半身と下半身をつなぐ重要な場所であり、大腰筋や腸骨筋と、大殿筋、大腿四頭筋、大腿二頭筋、内転筋などの筋肉群が集まっているので、立つ、歩く、座るなどの体の動きをスムーズにするためには、柔軟性も大切だと思います。そこで僕自身は、スキーのためにも日頃から「あぐら」で柔軟性を確かめています。あぐらの姿勢が苦しくなったら、股関節のストレッチを普段より多めに行ったり、大股で歩いたりしています。膝を胸に抱えたり、膝で円を描くように内転と外転を繰り返したりすると、あぐらが組

みやすくなり、ひと安心します。

実はこれに気づいたのは、僕が佐賀県の健康づくり運動に協力しているときに、茶道家の患者さんと知り合い、その方が健康づくり運動に参加してスクワットやストレッチを続けるうちに、正座やあぐらの姿勢も取りやすくなり、血糖値も改善したと伺ったことがヒントになっています。筋肉づくりやストレッチは日常のちょっとした動作を楽にして、人々をアクティブにし、高血糖や高血圧の改善にも役立つということです。

人生100年時代の食は、タンパク質を大切に

健康づくりには目標が必要です。僕は患者さんや講演会参加者に対して、「95歳まで自分の力で、月に1回は外食したり、日帰り温泉に行ったりして人生を楽しめるような心と体の維持」という目標を掲げて説明しています。そのためには食生活も重要です。以前は食塩が多かった食事を見直すために減塩しようという呼びかけが中心だった健康づくり運動も、超高齢社会になって、フレイル予防という新しい問題が発生し、減塩以上に「タンパク質をいかに効率的に摂取するか」がポイントになっています。貯筋するためには1日に体重1kg当たり1.2gのタンパク質を摂ろうと言われています。タ

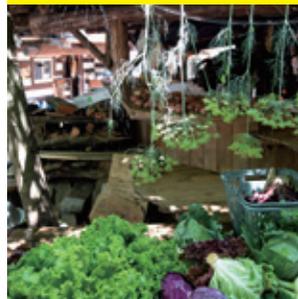
ンパク質＝肉、と考えてしまいがちで、「高齢になると肉もそんなに食べられない…」と思う人も多く、タンパク質に関する正しい情報の普及が必要です。タンパク質を手軽に摂取できる食品は身近にたくさんあります。魚の缶詰、卵、豆腐、豆類、乳製品などを組み合わせれば、無理なく手頃にタンパク質豊富な食生活を実現できるということを、超高齢社会の健康づくりとして提唱していく必要があります。日本股関節学会の先生方にも、運動指導だけでなく、日々の食生活の大切さやタンパク質摂取の重要性についても指導していただけるように切に願っています。



ツェルマットで颯爽とスキーを楽しむ鎌田寛先生



鎌田先生の大親友の長谷川豊（ハセヤン）さんが経営するレストラン『カナディアンファーム』にて



ハセヤンと仲間が丹精込めて育てた有機野菜を使ったメニューが名物。朝収穫したばかりの新鮮な野菜が並ぶ



「ハセヤンが焼いたハセパンとスモークハム、そして自家製石窯で焼いたローストチキンが大好きでね。タンパク質っぱいの“タン活”ですよ」と鎌田先生も太鼓判

◆訪れたのは
長野県原村カナディアンファーム
〒391-0112
長野県諏訪郡原村 1077-7
TEL 0266-74-2741
(営業日や時間は事前に要確認)

第7回日本股関節学会 教育研修セミナーご案内 (ベーシックコース)

股関節の専門医を目指す若い医師の育成を目的に教育研修セミナーを企画することといたしました。

股関節の外傷や疾患は、小児から高齢者に至るまで幅広く、また、様々な全身疾患や障害とも関係しております。股関節の専門医として適切に診断と治療を行うためには、股関節に関する基礎科学から手術まで幅広い知識が求められます。

本セミナーを通して、多くの若い医師が、これらの専門的な知識を習得して、これからの股関節学会を担ってもらうことを期待しております。

今回は新型コロナウイルス感染症の現状を踏まえて、ハイブリッド開催（現地会場＋ライブ配信）とし、その後オンデマンド配信を予定しています。

日時：2021年10月21日（木曜日） 10:25～15:05

会場：奈良県コンベンションセンター
(〒630-8013 奈良県奈良市三条大路 1-691-1)

参加費：10,000円

参加数：150名

単位：日本整形外科学会教育研修単位が認められております。
各セッション1単位、受講単位は1日4単位まで取得可能です。
受講料1単位1,000円



申込方法：第48回日本股関節学会学術集会「教育研修セミナー」ページより参加登録してください。

<https://site.convention.co.jp/hip48/>

プログラム

10:25～10:30	開会挨拶 理事長挨拶	高木 理彰（セミナー担当理事） 杉山 肇（日本股関節学会 理事長）
10:30～11:30	I 基礎 モデレーター 佐々木 幹	
	1) 股関節疾患の画像診断	西井 孝（大阪急性期総合医療センター）
	2) 股関節外科医の医療安全	楯野 良知（金沢大学）
11:30～11:40	休憩	
11:40～12:40	II 股関節周囲の腫瘍と外傷 モデレーター 上島 圭一郎	
	1) 股関節周囲腫瘍の診断と治療	白井 寿治（京都府立医科大学）
	2) 骨盤骨折の診断と治療	上田 泰久（埼玉医科大学）
12:40～12:50	休憩	
12:50～13:50	III 小児股関節 モデレーター 馬庭 壮吉	
	1) 大腿骨頭すべり症の診断と治療	柿崎 潤（千葉県こども病院）
	2) ヘルテス病の診断と治療	岡 佳伸（京都府立医科大学）
13:50～14:00	休憩	
14:00～15:00	IV 股関節疾患の病態と治療 モデレーター 加谷 光規	
	1) FAIの病態、保存療法と手術適応	小林 直実（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
	2) 大腿骨近位骨切り術の適応と限界	内山 勝文（北里大学）
15:00～15:05	閉会挨拶	杉山 肇（日本股関節学会 理事長）

日本整形外科学会学会賞

(Award for the Development of JOA) を受賞して

日本股関節学会
ニュースレター



久保俊一

日本股関節学会監事（日本股関節学会前理事長）



この度、令和2年度の日本整形外科学会学会賞 (Award for the Development of JOA) を受賞いたしました (写真1)。

本賞は日本整形外科学会の会員で、多年にわたる教育・医療・社会的啓発等の活動により整形外科学の発展、日整会の運営に顕著な貢献をした者に授与され、その活動業績は社会的に評価されているものとされています。栄えある学会賞受賞は、誠に光栄であり、整形外科学の発展に寄与できたことを大変誇りに思います。

私は1978年(昭和53年)に京都府立医大整形外科学教室に入局し、大学を主として歩みを進めてきました。大学院、講師、医局長、助教授を経て、2002年から18年間京都府立医科大学整形外科学教室の教授を務めました。その間、米国ハーバード大学や仏国サンテチエンヌ大学などの留学の機会も得、卒前・卒後教育に携わるとともに股関節外科やリハビリテーション医学を中心に臨床・研究をすすめました。そして、その中で人材育成が整形外科の診療や研究を発展させるためにいかに重要であるかを学びました。現在は京都府立医科大学の特任教授と京都中央看護保健大学校の学校長の職責をいただいております。

日本股関節学会には1980年に入会し、2009年から2019年まで初代の理事長を拝命し、2018年には日本股関節学会の法人化もはたしました。また、股関節の分野に関係する厚生労働省の特発性大腿骨頭壊死症研究班班長、日本整形外科学会のガイドライン委員会担当理事、日本医学会評議員なども務めさせていただきました。そこには、大学の垣根を越えた全国の優秀な人材が集まり、密な交流の中でオリジナリティー（独創性）やエビデンスの大切さを共有し、たくさんの方の経験させてもらった有意義な場でした。

学術集会としては2009年に第36回日本股関節学会を開催させていただき、2012年に主催した第85回日本整形外科学会学術総会は、2011年の東日本大震災の翌年でしたが、国内外から1万人を超える参加者を得て、日本の健在ぶりを海外に示すことができました。

医学教育には学術的な裏付けのある知識や技能が必須であり、その道標となる教材は不可欠です。私は整形外科やリハビリテーション医学の診断から治療にいたるまで、医師だけでなく、学生や専門職にも活用してもらえる計28冊のテキストの著作や編集を行ってきています。特に、日本股関節学会理事長として股関節学会の先生方にも多大なご協力を得て2014年に発刊した1250ページに及ぶ「股関節学」は私の学問的集大成でもありました (写真2)。股関節のすべてを網羅した教科書であり、股関節外科の発展に寄与できたのではないかと考えております。

今回の日本整形外科学会学会賞の受賞は、多くの優秀な股関節学会の先生方のご支援があったことです。本受賞が日本股関節学会の先生方の臨床・研究・教育の活動の励みとなり、股関節学がますます発展していくことを祈念致します。



(写真1) 日本整形外科学会学会賞の賞状とバカラの記念品
(2021年5月)



(写真2) 股関節学 (2014年3月発刊)



第31回大正 Award 最優秀賞・優秀賞

第46回日本股関節学会総会において表彰式が執り行われました。

最優秀賞



市堰 徹
金沢医科大学整形外科
臨床教授



受賞した研究活動について教えてください。

骨髄由来間葉系幹細胞の変形性関節症に対する疼痛と病態進行の抑制効果について動物モデルを用いて検討しました。



受賞後の感想をお聞かせください。

大変栄誉ある賞を頂き光栄に思います。学会関連の先生方、一緒に研究をしている先生方に非常に感謝しております。



周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

研究グループのメンバーや同門の先生方、周囲の皆様から多くの祝福の言葉を頂きました。研究グループの後輩のモチベーションに繋がっています。



受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

研究は継続と実行が大切であることを再認識させて頂きました。今後も更なる研究活動をグループの先生方と協力して行っていきたいと思っています。



今後の展望についてお聞かせください。

臨床研究の実ではなく、基礎研究における重要性を常に念頭に置きこれまで行ってきました。今後も一つ一つを大切にしながら発展させていきたいと思っています。また、日本股関節学会および金沢医科大学整形外科に少しでも貢献していきたいと思っています。





優秀賞



桑沢 綾乃
埼玉協同病院
整形外科
関節治療センター部長



受賞した研究活動について教えてください。

THA 術後に鼠径部痛を来す腸腰筋腱インピンジメント (iliopsoas impingement :IPI) の病態についてエコーを用いて研究しました。IPI 発症には白蓋骨母床から cup 前縁部の overhang があるなど、インピンジする原因は指摘されていますが、実際に擦れて痛みを出している腸腰筋に焦点を当てた研究はありませんでした。そこで、腸腰筋腱部の走行状態を動的にとらえるため、エコー検査を実施し、股関節屈伸時の腸腰筋の走行角度 (iliopsoas angle :IPA) から IPI に特徴的なエコー所見を検討しました。



受賞後の感想をお聞かせください。

とても栄誉ある賞ですので、私のような地方の一般病院勤務の医師が受賞できる賞とは思っておらず、受賞を伺った時には信じられないほど驚き、本当に感激しました。日頃よりご指導頂き、この研究を面白いからとノミネートすることを薦めて下さった仁平高太郎先生に心から感謝しております。また、この研究をご評価頂いた先生方に御礼申し上げます。



周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

病院の皆も本当に驚き、喜び合いました。改めて、自分の力だけでなく、皆の力で頂けた賞だと思います。沢山の先生方からもお祝いのお言葉を頂戴し、本当に嬉しかったです。娘にも一目置いてもらえたかもしれません。



受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

受賞に恥じない関節外科医を目指そう！と自分を律しています(笑)。自分の発信が下肢関節外科医を志す若手の女医さんの励みになれば幸いです。



今後の展望についてお聞かせください。

これからも、真摯に患者さんと向き合って臨床の力を養っていきたいと思います。その中で、臨床で得る気づきを大切に、疑問を感じたらそのままにせず探求していこうと思っています。

日本股関節学会役員一覧①

日本股関節学会役員をご紹介します。

役職	氏名	所属・職名
理事長	杉山 肇	神奈川リハビリテーション病院 院長
副理事長	菅野 伸彦	大阪大学大学院運動器医工学治療学寄附講座 教授
	山本 謙吾	東京医科大学整形外科 教授
理事	伊藤 浩	旭川医科大学整形外科学講座 教授
	稲葉 裕	横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学（整形外科） 教授
	上島 圭一郎	京都地域医療学際研究所がくさい病院 院長
	大川 孝浩	久留米大学医療センター 院長
	兼氏 歩	金沢医科大学整形外科学講座 教授
	川手 健次	奈良県総合リハビリテーションセンター 院長
	坂井 孝司	山口大学大学院医学系研究科整形外科 教授
	神野 哲也	獨協医科大学埼玉医療センター整形外科 教授
	浜藤 啓広	三重大学医学部整形外科学教室 教授
	高木 理彰	山形大学医学部整形外科学講座 教授
	高平 尚伸	北里大学大学院医療系研究科整形外科学 教授
	帖佐 悦男	宮崎大学医学部整形外科 教授
	中島 康晴	九州大学医学部整形外科学教室 教授
	中村 琢哉	富山県立中央病院整形外科 部長
	馬渡 正明	佐賀大学医学部整形外科学教室 教授
	三谷 茂	川崎医科大学骨・関節整形外科学 教授
	山本 卓明	福岡大学医学部整形外科学教室 教授
監事	久保 俊一	京都中央看護保健大学校 学校長
	山田 治基	日進おりど病院整形外科 顧問
	安永 裕司	広島県立障害者リハビリテーションセンター 所長
学術理事	内田 宗志	産業医科大学若松病院整形外科 診療教授
	加畑 多文	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科整形外科 准教授
	加谷 光規	足立外科・整形外科クリニック 副院長
	斎藤 充	東京慈恵会医科大学整形外科学講座 教授
	高尾 正樹	大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学（整形外科） 講師

新学術理事よりご挨拶 新たに就任した学術理事から会員の皆様へのメッセージです。

内田 宗志 (うちだ そうし)	正規所属名称・肩書	産業医科大学若松病院 診療教授
	専門分野	スポーツ整形外科 股関節
	抱負	本学会の学術理事を拝命し大変光栄に存じます。先達者の先生方が蓄積してきたノウハウと歴史に感謝しながら、新しく発展させる温故知新の精神で、粉骨碎身学会のために尽力する所存です。よろしく申し上げます。

加畑 多文 (かばた たもん)	正規所属名称・肩書	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科整形外科 准教授
	専門分野	股関節外科・関節リウマチ
	抱負	この度、伝統ある本学会の学術理事を拝命し、大変光栄に存じております。学術理事として、これからの日本股関節学会および未来の医療を担っていく若い先生方の力に少しでも役に立てたらと思っております。なにとぞよろしく願い申し上げます。

加谷 光規 (かや みつのり)	正規所属名称・肩書	医療法人二樹会 足立外科・整形外科クリニック
	専門分野	股関節鏡手術
	抱負	股関節鏡手術の安全な普及と特に股関節超音波エコー診断に焦点をあてた教育研修セミナーの充実を通して日本股関節学会と本邦の股関節病学の発展のお手伝いをさせていただきます。理事、評議員の先生方そして学会員の皆様、よろしく願い申し上げます。

斎藤 充 (さいとう みつる)	正規所属名称・肩書	東京慈恵会医科大学 整形外科学講座 主任教授
	専門分野	関節外科・人工関節, 骨代謝・骨粗鬆症
	抱負	この度、伝統ある学会の学術理事を拝命致しました。健康寿命100年を目指した臨床・研究をもとに本学会の発展に寄与できるよう粉骨碎身努力いたします。今後ともご指導の程お願いお願い申し上げます。

高尾 正樹 (たかお まさき)	正規所属名称・肩書	大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学整形外科学・講師
	専門分野	股関節外科、コンピュータ支援手術、人工知能、骨盤外傷、大腿骨頭壊死症
	抱負	この度伝統ある本学会の学術理事を拝命致しました。学会全体の力を結集し、国内外においてその地位を高める中核となれるよう精進したいと存じます。

日本股関節学会役員一覧②

日本股関節学会役員をご紹介します。

名誉会員

東 博彦
飯田 寛和
石井 良章
糸満 盛憲
井村 慎一
岩田 久
遠藤 直人
小宮 節郎
進藤 裕幸
高岡 邦夫
田中 清介
鳥巢 岳彦
内藤 正俊
浜田 良機
稗田 寛
船山 完一
松永 隆信
松野 丈夫
松本 忠美
宮岡 英世

青田 恵郎
赤木 将男
秋山 治彦
阿久津 みわ
浅海 浩二
阿部 功
安保 雅博
安藤 涉
飯田 哲
伊賀 敏朗
池内 昌彦
石井 政次
石堂 康弘
石橋 恭之
市堰 徹
伊藤 浩
伊藤 芳毅
稲葉 裕
今井 晋二
今井 教雄
今釜 崇
岩崎 倫政
岩瀬 敏樹
岩田 憲
上島 圭一郎
内田 宗志
内山 勝文
江川 洋史
梶 賢一
大川 孝浩
大谷 卓也
大塚 哲也
大塚 博巳
大橋 弘嗣

大原 英嗣
大山 正瑞
大湾 一郎
岡野 邦彦
岡野 徹
尾崎 敏文
尾崎 誠
加来 信広
柁原 俊久
片山 直行
金治 有彦
兼氏 歩
加畑 多文
加谷 光規
苅田 達郎
川崎 雅史
川手 健次
河野 俊介
河原 郁生
河村 春生
北川 由佳
木下 浩一
桑沢 綾乃
古賀 大介
小久保 安朗
小助川 維摩
後藤 毅
後藤 昌子
小林 千益
小林 直実
斎藤 修
齊藤 正純
斎藤 充
西良 浩一

評議員

三枝 康宏
坂井 孝司
坂本 武郎
佐々木 幹
佐藤 貴久
穴戸 孝明
島 直子
神野 哲也
菅野 伸彦
杉山 肇
湊藤 啓広
瀬川 裕子
関 泰輔
高尾 正樹
高木 理彰
高窪 祐弥
高橋 大介
高平 尚伸
武石 浩之
立岩 俊之
田中 歩
田中 栄
谷口 隆哉
谷野 弘昌
種市 洋
筑田 博隆
帖佐 悦男
土屋 弘行
津村 弘
出家 正隆
土井田 稔
徳永 邦彦
中島 康晴
仲宗根 哲

学術評議員

中田 活也
 中原 一郎
 中村 琢哉
 中村 健
 中村 宣雄
 中村 正則
 中村 吉秀
 中村 嘉宏
 名越 智
 西井 孝
 西田 圭一郎
 西野 衆文
 西山 隆之
 萩原 茂生
 長谷川 正裕
 蜂谷 裕道
 馬場 智規
 原 俊彦
 原田 義忠
 兵頭 晃
 平川 和男
 福島 健介
 福田 寛二
 藤井 玄二
 藤井 英紀
 藤井 政徳
 藤岡 幹浩
 藤田 裕
 藤原 勇輝
 星野 裕信
 堀内 忠一
 前澤 克彦
 前田 ゆき
 間島 直彦

松下 功
 松田 秀一
 松峯 昭彦
 馬庭 壯吉
 丸山 正昭
 馬渡 正明
 三浦 陽子
 三木 秀宣
 三島 初
 三谷 茂
 湊 泉
 宮武 和正
 宮西 圭太
 宮本 健史
 宗本 充
 最上 敦彦
 本村 悟朗
 森 諭史
 森島 達観
 森田 充浩
 森田 裕司
 山崎 琢磨
 山田 晋
 山村 在慶
 山本 謙吾
 山本 卓明
 山本 豪明
 山本 哲司
 山本 泰宏
 脇阪 敦彦
 渡會 恵介

青木 清
 石田 雅史
 伊藤 重治
 大鶴 任彦
 大橋 寛憲
 岡上 裕介
 楢野 良知
 鎌田 浩史
 後藤 公志
 坂本 哲哉
 山藤 崇
 庄司 剛士
 瀬戸口 啓夫
 園畑 素樹
 高田 亮平
 田中 健之
 崔 賢民
 千葉 大介
 中村 順一
 西脇 徹
 橋本 慎吾
 林 申也
 羽山 哲生
 藤原 憲太
 箕田 行秀
 三村 朋大
 渡邊 宣之
 渡邊 弘之

■ 会員の資格

正会員	医師
準会員	医師以外（理学療法士 作業療法士 診療放射線技師 看護師など）
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）

■ 会費

正会員	医師 10,000 円
準会員	医師以外 5,000 円
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体 50,000 円
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）入会当該年度 のみの登録 5,000 円

入会手続き



ご入会を希望される方は、HP より入会登録フォームによる入会申し込み、もしくは申込書をダウンロードし、所要箇所をご記入の上、FAX もしくは郵送にてお申し込みください。なお、ダウンロードできない場合には、郵送いたしますので、申込先までご連絡ください。手続きに際しては必ず会則をご一読ください。

1. 入会申込書の記入について

- 入会申込書はすべてデータベースに登録しますので楷書ではっきり記入してください。
- 所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入してください。
- 連絡先は会費請求書等の送付先になりますので、所属機関、自宅住所のうち、該当するものを選択してください。
- 準会員での入会の場合は、可能な限り正会員1名の推薦をお願いします。
- 推薦者がいる場合は、所定欄に推薦者名をご記入ください。
- 臨時会員の入会は、当該年度のみ登録となります。
例：第47回学術集会（リハビリテーション・看護部門）で発表し、Hip Joint 第47巻 Suppl. 誌に投稿の場合、当該年度（2020年度：2020年9月1日～2021年8月31日）のみの登録となります。
- 本会の会計年度は、9月～8月です。
- 記載された個人情報は本学会の運営業務のみに使用します。

2. 会費の送金方法について

入会申込書をご返送していただいてから、1ヵ月以内に会費請求書（払込用紙）を発行いたしますので、最寄りの郵便局よりお振り込みください。

3. 入会申込書

正会員・準会員・臨時会員 → HP より PDF ダウンロード
賛助会員 → HP より PDF ダウンロード

4. 自動振込申込について

自動振込をご希望の方は、以下の用紙をダウンロードしてください。所要事項をご記入いただくとともに金融機関届出印を押印のうえ、下記申込先まで郵送してください。

*入会初年度は、学会事務局よりお送りする年会費請求書（払込用紙）にて送金 手続きをお願いします。自動振込の取扱い は次年度からの適用となります。

*届出印相違により、自動振込申請ができない場合がありますので、預金口座に使用している届出印をご確認ください。

自動振込用紙 → HP よりダウンロード

申込先：日本股関節学会 会員係

〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9 階
(株) 毎日学術フォーラム内
TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555
E-Mail : jhs@mynavi.jp
URL: <http://hip-society.jp/>

編集後記

新型コロナウイルス感染症の第5波による緊急事態宣言が21都道府県に出されています。これが会員の皆様のお手元に届く頃には収束していますようにと祈念しながら、日本股関節学会ニュースレター第7号を編集いたしました。

昨年10月に三重県四日市市で開催された第47回学術集会の報告記を、湊藤啓広前会長からいただきました。初のハイブリッド形式でしたが、1000名以上の参加により、テーマとして掲げられた「Humanity Invention Progress」への寄与を果たされたものと思われます。第48回学術集会は、川手健次会長が「心体光明」をテーマに準備されています。通常開催は難しい状況かとは思いますが、昨年オープンしたばかりの奈良県コンベンションセンターで開催されます。多くの会員が、それぞれ可能な形で、積極的に参加されることを期待します。

鎌田實先生は会員の皆様もよくご存じの先生ではないでしょうか。73歳の今でも多方面で精力的に活動されており口コモとは無縁の印象でしたが、「筋活と貯筋」の賜物のようです。公式ホームページ(<http://www.kamataminoru.com>)に多くの著書も案内されていますので、是非ご参照ください。

前理事長の久保俊一先生からは、日本整形外科学会学会賞受賞についてご寄稿いただきました。学会賞は、整形外科学の発展や日整会運営への寄与が顕著であった会員に対し、毎年2名以内に贈られる大変栄誉ある賞です。日本股関節学会としても大変うれしい受賞でした。監事として引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

第31回大正Awardも、『Hip Joint』への投稿論文のうち応募のあった20編近い論文の中から選ばれた、栄誉ある賞です。受賞された先生方のさらなるご活躍を祈念します。

種々の分野でご活躍の5名の学術理事の先生方には、既に学会の各種企画・業務でご尽力いただいています。学会のさらなる発展に寄与していただけるものと期待されます。

冒頭の杉山理事長ご挨拶にもありますように、日本股関節学会ではコロナ窩の中でも新たな事業も含め精力的に活動を行っています。ニュースレターでは会員の皆様からのご意見も反映し、有用な情報をお伝えしていきたいと思っておりますので、ご意見やご要望をお寄せいただければ幸いです。

(担当理事 神野 哲也)

日本股関節学会ニュースレター第7号 2021年9月号

発行元・お問い合わせ先

一般社団法人日本股関節学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル9階
(株) 毎日学術フォーラム内

TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555

E-Mail : jhs@mynavi.jp

URL:<http://hip-society.jp>